

サロンあべの

ボランティアグループとしての へサロンあべのへ

地域の障害者と健常者の接点と、様々な角度から企画して、多くの方々との出会いを作り、障害者と健常者の相互理解を深めると共に、お互いに助けあえる仲間作りをしていきたいと考えています。また、いろいろな情報の交換や提供を行ない、より多くのタツノオタのへサロンあべのへの参加を願っています。

歓迎迎会

八月二十四日(日)十二時からアベノセンタービル九階にあるバイキング料理の「コンコルド」にて あべのボランティア・ビューローの岡知史氏の送別会と、その後任として九月からコーディネーターとされる前田博子さんの歓迎会が開かれました。

お忙しいにもかかわらず、あべのボランティア・ビューローのボランティアの方々、サロンあべののメンバー、合わせて十六人と(頭(ケリヤ)が出席。大島氏の挨拶、水谷さんの乾杯の音頭で始まった宴は時間とともに華やかなりしは、暑さも忘れて、大いに盛り上げました。

席上、岡氏には、出席者一同から心ばかりの記念品(図書券)と寄せ書きの色紙が贈られました。岡氏、前田さん

両人のそれがこれの直ぐの活躍を祈念しつつ、二時過ぎに散会しました。

なお、岡氏は専門分野の研究と執筆活動とを並行し、同時に後進の指導等に教壇にも立ちまわります。

一年余にわたって、いろいろ書かしてこられたあべのボランティア・ビューローには、今度はボランティアとして、南へ行って行かれます予定。

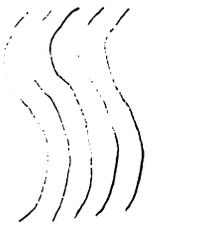
PROFILE

あべのボランティア・ビューロー
前田博子さん

自分の廻りに、全く、心身障害児者がいなかったのが、動機で社会福祉の道へ。大阪府立大学在学中の部活も福祉一色。テキストを買って自分で三日間、一心不乱、脇目も振らずに読書をマスターして、ヤンタビとサイン。ところがどっこい、独学がアダして、読む方を焼いて、書けばサカサマ、皆から「ガサ」と笑われる。敵を長年取ったわけではないが、手話はサカサマにはならず、学業とともに今年の三月に卒業。

「福祉マシーン」と、鉦太鼓で探し、ヤツと、みか、たに社協が、京都のハズレ、高野山の麓から通える道理はなく、親御さんに箱から出てもらうえず、正職員の座を棒に振って、アルバイトで大阪市社協とあべのボランティア・ビューローへ。

福祉に絶大なファイトを燃やすハ重歯のカワユイおじさん。



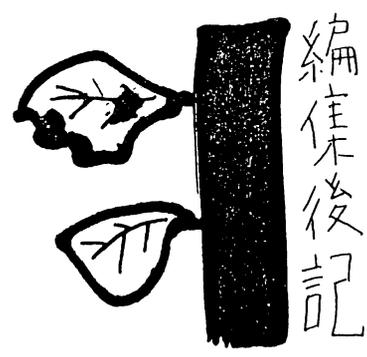
九月の
出会

「サロンあべの」では、左記の内容で、九月の出会いを持ちたいと思っています。

現在、ボランティア活動をされている方、ボランティアに南心をお持ちの方、そしてボランティアにお世話になっていらっしゃる方、ご参加頂いて、活動内容や今後の抱負などお話し合っ、その中からコミュニケーションって何かを見つけないかと考えます。

記

日時 昭和61年九月二日(土) 一時〜四時
 場所 育徳コミュニケーションセンター二階研修室
 内容 「コミュニケーションとボランティア」
 (手話通訳有)



編集後記

本紙の編集の依頼をされ、及ばずながら「To the Team」とエエカッコしたものの二十数年前に取った杵柄では、素人も同然、この頃の通りの紙面と相なりました。号を違えて恥しくないものにしていきたいと思っておりますが、此後様方の協力と叱咤なしでは果し得ぬ重責でございます。何とぞよろしくお願いたします。

本紙も三号へサロンあべののコミュニケーション紙にふさわしい「名止削」を付けて下さい。